

平成30年度入学者選抜学力検査問題 社会 正答・正答例及び評価基準

※解答欄に語句が印刷されている問題では、同じ語句が重複して書かれていても正答とする。

※複数の小問をあわせて配点しているものは、すべて正しい場合のみ正答とする。

※正答または正答例において(例)で示されている小問の誤字、脱字については、小問ごとに全体で1点減点とする。

問題番号		正答または正答例		配点		評価上の留意事項		
問	小問			小問	計			
1	I	(1)	青森(県)	2	30	I(4)②目的は、「連作障害を防ぐため」も正答例とする。また、正答例と同等の内容が書かれているものを正答とする。 I(4)③は、順序は問わない。 II(2)②は、順序は問わない。 II(3)①は、正答例と同等の内容が書かれているものを正答とする。		
		(2)	酪農	2				
		(3)	ア	2				
		(4)	①	う え 方法			エ ア 輪作	2
			②	目的			(例)作物を育てる土地の力を維持するため	3
	II	(1)		ウ、エ ウ			2	
		(2)	①	お か			フランス イ	2
			②				ア、エ、オ	3
		(3)	①	(例)経済力の強い国に対抗する(12字)				3
			②				オ	3
2	(1)		イ(→)ウ(→)ア(→)エ	2	31	(2)①納めた物は、「綿一百屯」も正答とする。 (3)は、「わかりやすい」、「信仰しやすい」など、念仏、座禅、題目に共通する特徴が書かれているものを正答とする。 (4)①は、順序は問わない。 (4)③は、経済力をもっていることと、土倉、酒屋など商工業者であることが書かれているものを正答とする。 (5)③は、「共同責任となるから」も正答例とする。正答例と同等の内容が書かれているものを正答とする。 (7)②は、順序は問わない。 (7)③は、「女性」の語を使って、正答例と同等の内容が書かれているものを正答とする。		
	(2)	①	税の名称	調			2	
		②	納めた物	綿 イ			2	
	(3)		(例)実行しやすい(6字)	2				
	(4)	①		イ、エ			2	
		②		イ			2	
		③		(例)富裕な商工業者			3	
	(5)	①		A			2	
		②		ア			2	
		③		(例)中心人物が誰かわからなくなるから			3	
	(7)	(6)		自由民権			2	
		①		シベリア出兵			2	
		②		ア、エ			2	
(3)	③		(例)女性の参政権の獲得	3				
3	I	(1)	買う側 売る側	(例)代金を支払う(6字) (例)商品を渡す(5字)	2	21	I(1)は、正答例と同等の内容が書かれているものを正答とする。 I(4)は、順序は問わない。 II(1)は、「少数」の語を使って、正答例と同等の内容が書かれているものを正答とする。 II(2)は、順序は問わない。 II(3)Aは、順序は問わない。 II(3)Bは、順序は問わない。 II(4)は、順序は問わない。	
		(2)		自由	2			
		(3)		ウ	2			
		(4)		ア、エ	2			
		(5)	い う	イ ウ	2			
	II	(1)		(例)少数の意見も尊重すること	3			
		(2)		イ、オ	2			
		(3)	A	ア、エ	2			
			B	イ、ウ	2			
		(4)		イ、エ	2			
(5)	え お	ウ ア	2					
4	(1)	①		ア、エ	2	18	(1)①は、順序は問わない。 (1)③は、「自然増減」の語を使って、正答例と同等の内容が書かれているものを正答とする。 (2)は、「C 1世帯あたり自動車保有台数が多い」、「D 消費者物価地域差指数が低い」も正答例とする。また、正答例と同等の内容が書かれているものを正答とする。特徴の記述については、項目の有無は問わない。 (3)については、次の(a)(b)を満たしているものを正答とする。 (a)手順1において、資料番号が書かれ、その上で選択した2つの資料を、「期待」と「心配」の観点から適切に読み取っている。 (b)手順2において、支持する立場が書かれており、手順3において、手順1で読み取った「期待」と「心配」の観点のどちらにもふれながら、支持する理由が書かれている。 ・(a)のみ満たしているものは4点とする。 ・(a)について、1つの資料のみ観点にそって適切に読み取っているものは2点とする。 ・(b)について、(a)を満たしているものを評価の対象とする。	
		②	X Y	ウ ア	2			
		③		(例)自然増減と社会増減の合計がプラスになっているから	2			
	(2)	項目		(例)A 通勤・通学時間が短い	2			
		項目		(例)B 1住宅あたり延べ面積が広い	2			
	(3)	手順1		(例) 【期待】 (資料4)2014年には二酸化炭素排出量が増加している国もある中で、日本は減少しているので、さらに減少することが期待できる。 (資料5)2012年以降、日本の部門別最終エネルギー消費量は、ほとんどの部門で少しずつ減少してきているので、さらに減少していくことが期待できる。 (資料6)国際社会の取り組みが進んできているので、税の意義を国民に説明することで、地球温暖化に対する意識がさらに高まることを期待できる。 (資料7)これまで以上に財源を確保できるので、地球温暖化対策につながる技術革新を促進することが期待できる。 【心配】 (資料4)2014年には二酸化炭素排出量が増加している国があるので、日本が取り組んでも世界全体では減少しない心配がある。 (資料5)2012年以降でも、日本の部門別最終エネルギー消費量は、部門によっては減少していないので、各部門の消費量が減少していくか心配である。 (資料6)2050年までに温室効果ガスの排出量を80%減らすことを目指しているため、この税をどれくらい負担していくのか心配である。 (資料7)企業の経費が増大するので、国際競争力の低下や経営の圧迫などの心配がある。	8			
		手順2 手順3		(例) ア 二酸化炭素排出量が増加している国があるので、それらの国に地球温暖化対策のための新しい技術を提供することで、世界の二酸化炭素排出量の減少に貢献できるから。(75字) イ 地球温暖化に対する国民の意識がさらに高まることを期待されるが、企業の経費が増大し、経営の圧迫や国際競争力の低下など経済への影響が懸念されるから。(72字) ウ 日本の二酸化炭素排出量は減少しており、2050年までに温室効果ガスの排出量を80%減らす目標に向けて、この税を今後どれくらい負担していくのか心配だから。(76字) エ 廃止 部門別最終エネルギー消費量は減少してきているが、企業の経営を圧迫する心配があるので、税の負担ではなく自主努力をさらにうながすような政策も考えられるから。(76字)				
					手順2、手順3の正答例については、 ・アは、「心配」が資料4、「期待」が資料7の例。 ・イは、「期待」が資料6、「心配」が資料7の例。 ・ウは、「期待」が資料4、「心配」が資料6の例。 ・エは、「期待」が資料5、「心配」が資料7の例。			